

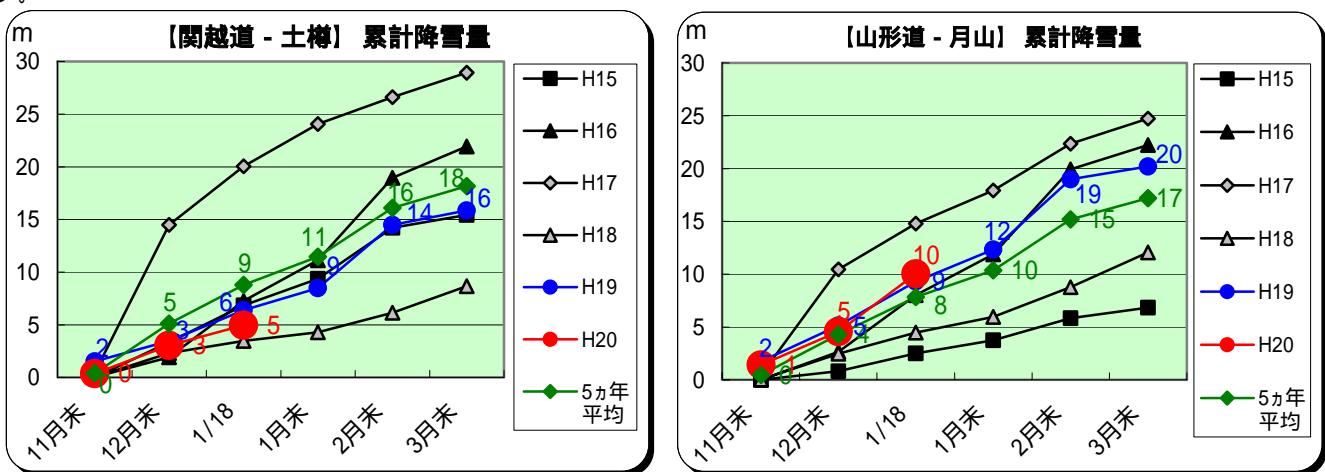
配布資料

平成21年1月22日
東日本高速道路(株)

降雪の影響について

1. 降雪量

1月18日までの累計降雪量は、過去東日本管内で一番の降雪を記録した関越道の土樽で約5mであり、昨シーズンの同時期の累計降雪量(約6m)と比較して約80%、過去5ヵ年平均(H15～H19)の同時期の累計降雪量(約9m)と比較して約60%となっています。また、山形道の月山では約10mであり、昨シーズンの同時期の累計降雪量(約9m)と比較して約110%、過去5ヵ年平均の累計降雪量(約8m)と比較して約125%となっています。



2. 降雪などによる通行止実施状況

雪による通行止量()は、平成20年11月1日から平成21年1月18日までの間で、約38,200km・hとなり、雪の影響による通行止の少なかった平成18及び19年度の同期間よりは通行止量が増加しておりますが、5ヵ年平均値との比較では60%程度となっております。

通行止量

通行止を実施した区間距離に通行止時間を乗じた通行止の絶対量を表す指標。

$$\text{通行止量} (\text{km} \cdot \text{h}) = \text{通行止区間距離} (\text{km}) \times \text{通行止延べ時間} (\text{h})$$

通行止量による対比 <速報値>

